

「労働組合活動」を行う中で

労働者委員 近藤友加

こんにちは。わたくしは鹿児島県労働委員会で労働者委員を務めております、近藤と申します。労働運動ウン十年の先輩方から見ればヒヨッコで、すべての労働組合の活動に合致するとは限りませんが（上部団体の背景等によっても異なるかもしれませんが）、自分の周囲の労働組合活動の紹介をしたいと思います。

さて、皆さんは「労働組合」と聞いて、どんな印象を持つでしょうか？ハチマキを巻いて、コブシを振上げてストライキしている様子でしょうか？確かに一部にはそういう側面も無くはないですが、私は「従業員が安心して生き生きと働くために」「会社といろいろな事を話し合い」「いい会社を作っていく」組織だと思っています。もちろん会社の言い成りでは意味がありませんので、譲れない部分ではありますが、あくまで「紳士的な話し合い」が主流です。

労働組合があることは労働者にとってメリットがあるのはもちろんですが、実は会社(経営者)にとっても労働組合が存在することでメリットがあると思います。会社の経営に絶対必要な労働者の中に秩序のある組織が存在することは、会社の運営にも良い影響を与えることができるはずです。

また、労働組合の活動は「組合員の生活の維持・向上」にあります。それとは別に「会社へのチェック機能」というものもあると思います。特に企業では、不正や偽装を行った場合、世間から厳しく非難されます。それは企業の体質もあるのですが、会社に対してものが言える組織が内部にあるかどうかといったことも、関係しているのではないかと思います。もちろん労働組合が無くても自浄作用がきちんとしてきている会社もありますし、労働組合があつたとしても認識しないまま（認識していれば悪質ですが）不正や偽装を内包している組織もあるでしょう。ただ、労働組合は一つのストッパーに成り得るということです。

さらに労働組合では、従業員の不満などの聞きとり、会社の制度変更時に労使で合意した内容について組合員に教宣したりなど、総務的な役割も果たします。組合組織によっては組合員の借金などの相談に乗ったりする場合があります。

労働組合の組織率が低下するに従って、残念ながら労働組合自体を知らない人、また先ほど例を出したように、極めて攻撃的なイメージを持っている人も多くなってきました。学校で習うわけでもないのに、「ユニオン」と聞いても何のことか分からない若い人達もいると思います。

労(労働者)使(使用者)は敵対するものではなく、運命共同体です（特に日本では多くが企業内組合なので）。立場は違えども、目指す「従業員の幸せ・会社の発展・社会への貢献」は同じはず。そのためには緊張感を保ちつつ、時には意見をぶつけながら、時には協力していくことが大切だと思っています。

あなたの持つ「労働組合」のイメージは変わりましたか？